

# 森林の生物多様性を高めるための取組 (森林経営計画の別紙様式) 記載例

## 目標の設定

- まず、森林経営計画の「森林の経営に関する長期の方針」で、**目指す森林の姿(目標)**を定めましょう。
- 次に、この別紙様式を使って、目標に応じた生物多様性を高めるための**具体的な取組**を考えましょう。

## 取り組む活動の特定

- 4つの**共通的な活動(●)**すべてについて、計画対象森林の**全域で実施する必要があります**。

- ① 森林配置
- ② 溪畔林等の保全
- ③ 攪乱への配慮
- ④ 情報収集

- それ以外の活動(○)は、目標計画対象森林の状況に応じて実施します。

## 活動のモニタリング

- モニタリングは、**活動状況のモニタリングと森林環境の状態のモニタリングの両方を実施する必要があります**。

- ① 活動状況
- ② 森林環境の状態

- 継続的・時系列的に記録することが重要であり、過大な労力やコストがかからないようにすることが大切です。
- 定期的な巡視機会、公的データ、地理的分布を表示するアプリなどを活用することが有効です。

## 認定書への記載

- 別紙様式に以上の必要な事項が記載されていれば、認定書において「**森林の生物多様性を高めるための活動に取り組む旨が記載されていることを確認した**」と記載されます。

### 1 計画対象森林で取り組む活動

(●は森林の種類・状態等に関わらず全域で共通して取り組むべきもの、○は状況に応じて取り組むべきもの)

チェック欄	活動内容	実施時期	実施場所
<input checked="" type="checkbox"/>	● 様々な樹種、林分構造、林齢、遷移段階等から構成される森林配置の計画	通年	全域
<input checked="" type="checkbox"/>	● 溪畔林等の保全、生物多様性保全に配慮した伐採・更新の実施	通年	全域
<input checked="" type="checkbox"/>	● 架線又は集材路の設置による保護樹帯又は保残木への影響の最小化	通年	全域
<input checked="" type="checkbox"/>	○ 長伐期化、帯状又は群状伐採による複層林化	通年	人工林
<input type="checkbox"/>	○ 尾根筋保護樹帯の設定・保残		
<input checked="" type="checkbox"/>	○ 侵入広葉樹、枯損木、樹洞木、経済合理性の低い箇所等の保残	通年	人工林
<input type="checkbox"/>	○ 植栽に必要な最小限の刈払い、整地		
<input type="checkbox"/>	○ 採取地が明らかな種苗の使用		
<input type="checkbox"/>	○ 水源域における生分解性チェーンソーオイルの使用		
<input checked="" type="checkbox"/>	○ シカ食害対策のための防護柵や単木保護資材の設置、わなや銃器等による捕獲等	通年	全域
<input type="checkbox"/>	○ 外来種の駆除		
<input checked="" type="checkbox"/>	● 絶滅危惧種等の生育・生息情報の収集	通年	全域
<input type="checkbox"/>	○ 絶滅危惧種等の生育・生息が認められた場合の専門家への相談、保全		
<input type="checkbox"/>	○ 里山資源の継続的利用(定期的な伐採・保育、広葉樹用材林への誘導等)		
<input type="checkbox"/>	○ 計画的な火入れの実施		
<input type="checkbox"/>	○ その他( )		

### 2 モニタリング

項目	内容
活動状況のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>伐採、造林、作業路網の設置等の活動は、森林法第15条に基づく「森林経営計画に係る伐採等の届出書」に記載し、写しを保管する。</li> <li>シカ食害対策に係る活動は、定期的な巡視結果を記録する。火入れ活動は、実施箇所の写真を保管する。</li> <li>絶滅危惧種等の生育・生息状況の収集は、本計画に基づく活動の実施に先立って、〇〇県のレッドリスト(植物編、鳥類・昆虫編)を確認するとともに、〇〇社のアプリ〇〇を活用し、地域に生育・生息する可能性のある種を把握する。</li> </ul>
森林環境の状態のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>伐採等の活動の実施により森林の状況に変化がある場合には、定期的に(少なくとも5年間の計画期間のうち1度以上)、森林巡視による観察や林況の写真撮影などにより記録する。</li> <li>普通種や絶滅危惧種等の生育・生息状況は、〇〇社のアプリ〇〇で随時記録するほか、地域住民やボランティア団体〇〇と協働して特定の種(〇〇)の定期的な調査を行う。</li> <li>本計画に従って産出される林産物の利用者等の関係者に対して、絶滅危惧種等の生育・生息状況に係る記録を除き、求めに応じて、モニタリング結果を提供する。</li> </ul>

## 活動状況のモニタリング例

森林経営計画に係る伐採等の届出書												
〇〇市町村長 殿											〇年〇月〇日	
住所 〇〇市〇〇町〇-〇											届出人 氏名 〇〇 〇〇	
認定番号〇〇号をもつて認定された森林経営計画の対象となる森林につき下記のとおり伐採(造林、譲渡、作業路網の設置)をしたので、森林法第15条の規定により届け出ます。												
所在地	地番	面積	伐採時期	主伐樹種	伐採面積	伐採立木材積	造林時期	造林種本数	造林面積	譲渡時期	譲渡面積	譲渡樹種
〇〇市	〇〇	2300	〇〇/〇〇	杉	200	600	〇〇/〇〇	人工林	2500	200		
〇〇市	〇〇	2339	〇〇/〇〇	杉	300							



計画に基づき実施した森林施業の箇所、面積、施業方法、保全活動の種類等について、施業履歴等として記録します。

## 森林環境の状態のモニタリング例

日時	〇年〇月〇日	場所	〇〇市〇〇林班
実施内容(植生調査・巡視等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマグワ・スダジイ等が確認された。林床植生は豊かに繁茂している。</li> <li>巡視の結果、作業道からの顕著な土砂移動は認められない。</li> </ul>		
特記事項	台風〇号による倒木は確認されなかった。		
写真		主伐箇所の状況	
		造林木と下層植生の状況	
	...	...	



森林施業など活動に伴う森林の変化を巡視や写真撮影等により記録します。

## よくある質問



### Q 「生物多様性を高める」とはどういう意味ですか。

林野庁が令和6年3月にとりまとめた「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」では、「生物多様性への負の影響を回避し、機能の低下した森林の再生を通じた生物多様性の回復を図ることも含め、生物多様性の保全に一層配慮した森林管理を実践することにより、多様な動植物の生育・生息空間として森林の質を現状より高めること」をいうものとしています。

### Q なぜ別紙様式「生物多様性を高めるための取組」を新たに定めたのですか。

指針でも紹介したように、森林管理における生物多様性保全の取組に当たっては、PDCAサイクルを実施して順応的な見直し（アダプティブ・マネジメント）を図ることが重要です。

これを具現化するべく、森林経営計画の計画書の様式（模範例）を見直して、「森林の経営に関する長期の方針」の一部として、別紙様式「生物多様性を高めるための取組」を新たに位置づけ、生物多様性を高めるための活動やそのモニタリング手法を任意に記載できるようにしたものです。

### Q 別紙様式を添付したらどのような効果がありますか。

別紙様式で必要な事項\*が記載されていれば、認定書において、「森林の生物多様性を高めるための活動に取り組む旨が記載されていることを確認した」との一文が追記されます。

認定書の情報を木材の流通過程（サプライチェーン）の中で伝達していくことで、生物多様性の観点も含めて持続的な経営が行われている森林から生産された木材として選択的利用を促す有効な手段となり得ます。

\*共通して取り組むべき4つの活動と、2種類のモニタリングを行うことが明記されている必要があります。

### Q 別紙様式を自らの森林経営計画の中に位置づけるためには、どうしたらいいですか。

これから新たに森林経営計画を作成する場合には、別紙様式を添付して\* 認定請求してください。既に森林経営計画を作成している場合には、自主的変更として、別紙様式を添付して\*変更認定請求してください。

別紙様式は、森林経営計画の種類（林班計画、区域計画、属人計画）にかかわらず、添付して認定（変更認定）請求することができます。

\*上に記載したとおり、別紙様式の添付はあくまで任意です。

### Q 別紙様式の記載内容（生物多様性を高めるための活動、モニタリング）の実施状況や結果は、誰かに報告する必要はありますか。

別紙様式は「森林の経営に関する長期の方針」の一部ですので、それ自体は、事後届出（森林法第15条に基づくもの）の対象ではなく、森林経営計画の遵守違反の判断の上でも直接的に関係するものではありません。

しかしながら、別紙様式は生物多様性を高めるための取組を実施する旨をいわば宣言する性質のものであることから、その実施状況や結果は、計画に基づき生産される木材の需要者などの関係者に対して、いつでも提供できるように記録・保存しておくことが望ましいです。



## 森林の生物多様性を高めるための林業経営

### 森林経営計画を活用したPDCAサイクルの実施

#### 生物多様性保全に取り組む意義

- 近年、世界的に生物多様性保全に対する関心が高まっています。
- 森林は、陸域で最大の生物種の宝庫であり、生物多様性の保全に大きな役割を果たしています。
- 林業生産活動は、それ自体が、生物多様性保全を含む森林の有する多面的機能の発揮に貢献します。
- 林業事業者が民間企業等と連携して、生物多様性保全に取り組めば、企業からの投資や資金協力により、林業経営の新たな収益機会にもなります。

#### 生物多様性を高める林業経営

- 林野庁では、令和6年3月に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を策定し、生物多様性を高めるための具体的な森林管理手法（ポジティブリスト）をまとめました。
- 生物多様性保全の取組に当たっては、①活動目標を設定した上で、②進捗状況をモニタリングし、③活動を評価することで順応的な見直しにつなげる「PDCAサイクル」を回すことが重要です。

